

## キャリア教育科目

### 【1】「キャリア教育科目」とは

科目は「キャリアプランニング〈1〉～〈10〉」「キャリアセミナー〈1〉～〈10〉」「インターンシップ準備講座〈1〉〈2〉」「インターンシップ実習〈1〉〈2〉」、キャリア発展講義「仕事とジェンダー」、「日本企業の現状と展望」の6科目を専任教員2名と非常勤講師6名で担当している。理工学部 of 科目として「理工系インターンシップ実習〈1〉～〈3〉」を専任教員10名で担当している。

### 【2】「キャリア教育科目」の共通認識

#### 関心・意欲・態度

社会・他者・自己へ関心を持ち、自己の中にある能力を顕在化(自他ともに認める)させる。そのプロセスにおいて、社会に出ていくために必要な知識やスキルを知り、何をどのように学び必要なことにどのように取り組むのかを考える。得た知識は在学中に良い習慣を身につけることや職業選択や今後のキャリアプランに活かす。

#### 思考・判断・表現

疑問に思うことや関心事をすぐに調べてみる、現場に行ってみる行動。社会や日常における様々な問題を解決すべく問題点を正しく発見する力、学問と思考力を関連させて自分の強みを形成する。自らの意見や考えを他者に伝える様々な方法(手段)を身につける。伝えるためには表現力ばかりではなく、伝えたいことを詳しく調べることが重要であり、追究する思考習慣や何事も自分の目で確かめる行動習慣が重要。

#### 技能

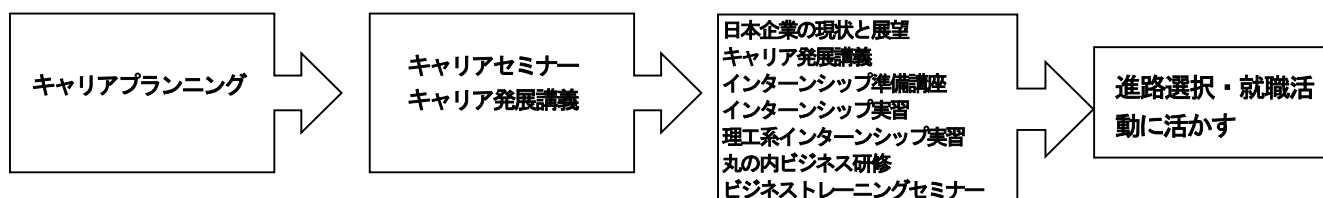
グループワークに抵抗なく主体的に取り組み、様々な制約やルールのもと他者と協力をしながら成果を出す。他者が理解できるプレゼンテーションスキル(パソコン・文章・口頭など)を習得する。また傾聴力を身につける・説得力のある伝え方、情報収集とその活かし方などを知る。

#### 知識・理解

一般的に過去に蓄積されたスキルや財産と理解されるキャリアは、将来にわたって自分で作って行けるものであるという前提に、卒業後の自分の職業や生き方を考えていくものである。従って、必要な知識・スキル・情報をどのように習得するのか、その方法を知る。自己・他者・企業組織・社会的責任・ビジネスの現場・職業選択のための活動などを理解する。

### 【3】各科目概要

#### カリキュラムフロー



#### キャリアプランニング〈1〉～〈10〉

各クラス80名履修制限 (前期/2年生～3年生・後期/1年生～3年生)

統一シラバスで講義を中心に行われるが、間にグループワークを実施したり映像を見せたり課題を出したり変化を持たせながら、学生が自主的に取り組めるように工夫している。

(授業概要)

一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言うが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もある。「自分はどのような人間なのか」

「いま自分を取り巻く社会環境はどのように変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。大学生活中に考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかり。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、能力が顕在化していく。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになること。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待する。

(到達目標)

- ①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
- ②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
- ③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
- ④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
- ⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

(授業の進め方)

授業は講義を主体に行うが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることもある。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布し、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにする。

毎回、授業の最後に振り返りシートを記入。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成する。またテーマに応じて課題も出す。

(課題の狙い)

- ・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
- ・インタビューしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

## キャリアセミナー〈1〉～〈10〉

各クラス40名履修制限（前期／2年生～3年生・後期／1年生～3年生）

グループワーク中心。テーマは講師がそれぞれ設定。

(授業概要)

テーマ例／調査・起業

この授業のテーマは「現代社会と自分を考える」。自分の中には様々な可能性がある。その可能性は人と関わったり、様々なことに興味を持ったりすることで広がっていく。我々を取り巻く社会を知りこれからの社会がどのようになっていくかを予測する。そこには社会と密接に関わりながら働く場があり、また自分を活かす場があるということを知ることだろう。これは卒業後の進路を考える上で大切なこと。

授業は講義中心ではなく、グループワークを通じて自分の持ち味（強み・知識・情報）に気付き発揮し伸ばしていくことを目的とする。そのプロセスでコミュニケーション能力や書いて伝える・書いて伝える表現力も身に付くことだろう。自分の意見を述べることの大切さを感じてほしい。

(到達目標)

- ①社会に関心を持って、更に調べることの大切さを認識する。
- ②行動することを大事にし、ビジネスの現場に行き行って調べる。
- ③自分の意見を根拠を明確に積極的に発信する。

(授業の進め方)

グループで自由にテーマを設定し、調査や情報収集をしながらグループワークを実施。グループ内で積極的に意見交換をしながら進めて行く。そのプロセスでコミュニケーション能力が身に付き、社会や企業に関する知識も増えていく。グループワークの成果はプレゼンテーションという形で実施。2回行い、違うテーマ（調査する・新しいビジネスを興す）で取り組み、社会やビジネスへの理解を更に深めていくことが可能。

自分の目で確かめたり、好奇心旺盛に行動することが楽しくなっていく。授業全体を通して、表現方法やマナーなども身につけることができるように、その都度気付いたことなどをフィードバックしていく。楽しく、興味深く、積極的に取り組む。

授業はあくまでも学生の皆さんが主体で、グループワークのプロセスではグループ毎に質問を受付けたり調査方法などについてアドバイスをする。職業選択に活かすきっかけにもしていくようにする。

## キャリア発展講義「仕事とジェンダー」

後期／1年生～3年生

(授業概要)

人はどのように働けばよいか。社会は、職場や家庭などにおける人と人との関係で成り立っている。人には男性と女性があり、その性差が、社会関係の仕組みや内容に影響を与えている。授業では、このような「ジェンダー」の視点から「仕事を行う」ことに焦点を当て、現状と課題を分析し、これから社会人になる学生にとって避けられない「社会」「企業社会」「男女共同参画社会」について考察する。仕事を通して能力を発揮し、キャリアを形成するために「仕事とジェンダー」について勉強する。

(到達目標)

ジェンダーの意味することを理解し、学生がキャリアをどのように構築するのか、という方向性を身につける。

(授業の進め方)

配布プリントをもとに講義を進める。講義以外に身近にいる職業人にインタビューを行い、「職業人レポート」の取材・発表をする。

## 日本企業の現状と展望

前期・後期／3年生

(授業概要)

「業界や企業の現状と展望」を知ることで自らの進路選択をリアルなものにする。この講義は、民間企業への就職を志す学生のために、業界や企業に関する基礎知識を学び、その現状を紹介することによって、学生自らが自分自身の進路選択と結び付けていくための科目。実際に企業の人を招へいしてお話しいただく場合もあり、民間企業への就職を間近に控えた3年生にとってとても有益なものになる。業界研究や企業研究のための基本的な手法なども紹介する。

(到達目標)

民間企業への就職を志す学生が、企業選びのために必要な基礎知識を修得し、情報収集の方法を身につけること。基本的には3年生の受講を想定した授業。

(授業の進め方)

講義形式の授業で、企業から外部講師として講義をしてもらう。

## インターンシップ準備講座〈1〉〈2〉

60名履修制限（3年生・2クラス）

履修のためのガイダンスを実施後、履修希望者は書類を提出。書類をもとに履修者を決定。インターンシップを体験したいという強い動機、学部の応募状況など鑑み、公平に選考。

6月からは夏休み期間中のインターンシップ先のマッチングのための選考（書類選考や面接など）を実施。インターンシップ先は一般企業と行政機関。期間は1週間から2週間が主流。大学経由と自由応募がある。

(授業概要)

民間企業や公共機関などでのインターンシップの準備のために必要な知識の習得や能力開発を行う授業。組織とは何か、働くとは何かを知り、インターンシップに積極的に臨むための準備をする。授業のプロセスで自分のことに気づき、社会や企業・組織などに対する様々な知識が増える。

(到達目標)

- ①社会と企業を知る。
- ②組織で働くことの役割を知る。
- ③社会で必要とされるルールを理解し、マナーを身につける。
- ④書いて伝える文章力の向上。
- ⑤話をして伝える表現力の向上。

(授業の進め方)

授業では講義の他に、グループディスカッション、グループワークなどを必要に応じて行う。インターンシップを自主的に取り組めるように、調べたり考えたりしながらインターンシップへの期待やモチベーションを高めていく。

## インターンシップ実習〈1〉〈2〉

60名履修制限（夏休み期間中に5日以上インターンシップを体験した3年生・2クラス）

（授業概要）

民間企業や行政機関等で体験したインターンシップの内容や体験を整理・確認し、自分の進路選択や将来に役立てていくことをサポートすることを目的とする授業。単にインターンシップを単位認定するための授業ではない。体験を整理し、課題解決や職業選択などにつなげていく。原則として前期の「インターンシップ準備講座」を受講し、実際にインターンシップ実習を行なった学生を対象とする。

（到達目標）

- ①インターンシップでの経験を整理する。
- ②インターンシップでの課題を認識し、今後に向けて行動計画をたてる。
- ③職業選択に活かす。

（授業の進め方）

インターンシップの実習を振り返り、実習後の学生個人やグループのプレゼンテーションとそれに関する補足講義を行なう。グループワークを通してインターンシップの体験や情報の共有化をはかる。個人の就職活動へ向けて文章表現やプレゼンテーションスキルアップなども目指す。

インターンシップの実習が授業の一部として考慮されるため、授業はシラバス通りに進んだ時点で終了。

## 理工系インターンシップ実習

後期／理工学部3年生

（授業概要）

原則として民間企業または公的研究機関等の組織における業務を対象として体験し、それら組織のなかでの業務の位置付け、役割の大切さを実感し、大学卒業後の進路の設定に役立てることを目的とする。また、実習先の開拓、実習計画の作成、実習の実行、報告書の作成による自己評価といった各ステップの体験を通して、自主的にものごとを進めていく能力を身につける。

（到達目標）

企業や公的研究機関などで実習を行い、組織の中での業務の位置づけが認識でき、大学卒業後の進路設定に役立てることが出来るようになる。

（授業の進め方）

後期科目となっているが、前期中にこの科目の概要の説明、2回程度の講義、演習を行う。実習については自己開拓を基本とする。希望をしても実習先が必ず見つかるとは限らない。実習終了後、報告書の提出とともに、担当教員による実習報告を中心とした面接を行う。

## 丸の内ビジネス研修（MBT）

35名定員（前期・後期／3年生）

（授業概要）

三菱系企業を中心とした優良企業と成蹊大学との連携により実現した本格的な産学連携人材育成プログラムである。本研修は次の3つの特徴をもつ。(1)多業種・多職種の優良企業とのコラボレーションにより学生の教育を産学共同で行う。(2)文理融合（経済学部・法学部・文学部・理工学部）のプロジェクトにより行う。(3)企業が取り組む実際の課題を随所に盛り込んだ課題解決型プログラムとなっている。

（到達目標）

各学生がその個性や能力を自覚し、適した企業を選択できる力を持つ。さらに、企業が持っている課題について、前向きに解決する問題解決力やコミュニケーション力、プレゼンテーション力などを持ち合わせ、企業活動を実践できる人材となること。

（プログラムの進め方）

プログラムは大きく3つのステップからなっている。

ステップ1は「学内準備研修」である。ここでは、学内で座学による問題解決能力、コミュニケーション力、マナーの育成を行う。ステップ2では、場所を丸の内に移し、企業の方に講師を務めて頂く「丸の内研修」を行う。ここでは、2つの項目が用意されている。1つ目は、企業から課題を与えていく研修である。2つ目は、企業の方から講演をいただく研修である。ステップ3は、インターンシップ先に学生が出向く「インターンシップ研修」である。企業では、課題解決型のインターンシップが用意されている。

上記の成果の発表の場として、最後に成果発表会が2つ用意されている。1つは、インターンシップ先での内容

を学生全員がプレゼンテーションを行う「学内個人成果発表会」である。2つは、選抜された学生を中心にMBTの成果を発表する「丸の内成果発表会」である。

---

#### 【4】授業で各教員が実践していること

時間厳守→時間通りに始まり、時間通りに終了

スタート時と終了のけじめの挨拶

毎回、授業の振り返りする→カード記入

定期的にグループワークを入れる

シラバスに沿って毎回レジュメを作成

映像や新聞記事など最新情報を提供し、社会への関心を促す

グループワークにおけるチームビルディング

授業以外でのグループワーク→企業や現場へのアプローチ、調査

※春休み・夏休み期間中の希望する学生への社会見学会（空港・企業・ショールームなど）

---

#### 【5】その他

授業に関して定期的に学生の様子など講師の方々から報告を受けている。「キャリアプランニング」に関しては成績評価の基準を明確にし各講師が評価し報告を受けている。前期・後期終了後、毎回講師全員で授業の振り返りをし、年に2度は2日間集中的に勉強会をして、講師の知識やスキルの向上にも努めている。